

# LTEタブレットは、多様な生徒に対応する強力な教育ツールになる

— 弘前学院聖愛中学高等学校

## 目的

- 生徒の学ぶ環境を一律にしたい
- 多様な生徒たちの強力な学習ツールとして活用したい
- 校務にも活用し、教職員の働き方改革にもつなげていきたい

## アプローチ

- 中高で統一したLTEタブレットを、1年生に「一人1台」導入
- 効果的なアプリの選定やICT研修会による活用の提案
- 教科書や教材、そして校務資料のデジタル化で利便性を向上

## 135年以上の教育実践を大切にしつつ、ICT機器で生徒の適性を伸ばす

2020年度より本格的にLTEタブレット80台を導入した弘前学院聖愛中学高等学校は、2021年度からは中学と高校の新1年生全員にLTEモデルのタブレットを用意する「一人1台」環境となります。同校では135年以上の教育実践を大切にしつつ、多様な生徒の資質能力を最大限に伸ばすための教育ツールとしてICT機器を積極的に活用できるよう、教職員が一丸となり、新しい学びへ向けた取り組みを始めています。

### 全教員参加のICT研修で、すべての教科でのICT機器活用を目指す



同校では数年前から一人1台の構想がありましたが実現に至っていませんでした。「近年の社会の急速な変化により、生徒には21世紀型スキルを身に着けることが求められている。そのためにはICTの授業での活用は不可欠であり、タブレットは文房具と同様、すべての生徒が持たなければならない」と感じていた小野寺仁教諭は、根気強くタブレット導入の必要性を学校に訴え続け、ついに2019年秋から本格的に導入を進める運びになりました。第一弾として、2020年度にLTEタブレット80台を導入しました。LTEモデルを選んだ理由のひとつには、自宅にWi-Fi環境がない生徒も学習できると考えたからです。

そのうえで、同校が注力しているのが教員のICT研修です。「生徒が主体的に、鉛筆のようにタブレットを使える環境を目指すためには、まずは教員が知らなくてはいけない」として、2020年度には全教員参加の研修を6回、全10教科の教科別研修を各12回予定しています。「実際に模擬授業を行いながら、タブレットを導入してどう教育を変えていくのか、どう活用していくのかを議論しています」と小野寺教諭は話します。研修はタブレットの利活用について全員で共有しつつ意見交換をすることで、教員間のICTスキルのギャップを埋める目的もあります。



弘前学院聖愛  
中学高等学校

〒036-8144  
青森県弘前市大字原ケ平字山元112-21  
URL : <https://seiai.ed.jp/>

弘前学院聖愛中学高等学校は、1886年に創立されたキリスト教主義学校です。建学の精神「畏神愛人」のもと、信仰に根ざした人格教育を礎に、他の人の痛みがわかる思いやりをもった人間を育てることを目的としています。文武両道を目指し、多くの部活動が全国大会にも出場しています。高等学校は、一般コースと特進・アドバンスコースにわかれ、多様な生徒の学びに対応しています。近年はSNSを活用し、生徒目線に立った学校紹介を発信しています。



[取材協力] 弘前学院聖愛中学高等学校

# LTEタブレットがあることで教員の意識が大きく変わった



## 校務にもタブレットを活用し、ペーパーレス化を実現

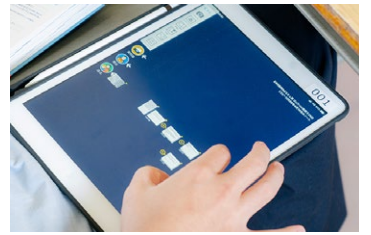
聖愛中学高等学校では、生徒用のLTEタブレット80台を使いたい時に教員がウェブ上から予約して使うシステムになっています。

また、教職員は一人1台のLTEタブレットを使っており、校務でも積極的に活用しています。導入後、ほとんどの書類をペーパーレスにしたため、会議では各自がタブレットで資料を見ながら進めるようになりました。これには、「タブレットを机の中にしまい込んだままにしては導入した意味がない」という小野寺教諭の工夫もあり、「導入数か月でプリントアウトすることがほとんどなくなり、タブレットを持って授業や会議に行くことがスタンダードになりつつあります」と、その成果を話していました。

## タブレットがあったことで、休校時もオンラインを積極的に活用

2020年度の始まりには、コロナ禍を受けて同校も休校を余儀なくされましたが、休校時にも活躍したのがLTEタブレットです。教員から自主的に「オンラインでこんなことができるのでは」といった提案が次々と出され、オンライン授業やオンラインホームルームが実施されたことは、すべてタブレットがあったからこそできたことだと、小野寺教諭は強調します。

また、2020年度に教務規定も全面的に改定し、不登校生徒の教育機会の確保として、ICTを活用した学習支援も、条件が合致すれば可能になりました。



# 紙とタブレットの使い分けで、より集中できるようになった

## 英語の授業では、タブレットならではの機能をフル活用



英語を担当している大澤次郎教諭は、「英語は音声が大変なので、タブレットを使って音声教材を配布したり、逆に生徒が音声を録音したものをチェックしたりできるなど、音声面では今までにないことができずばらしいです」と、英語とタブレットとの親和性の高さを語ってくれました。さらに、「休校中のオンライン授業では、“先生対生徒”だけではなく、生徒同士で協働して作業したので、とても良いコミュニケーションが生まれました」と、オンラインにおける有用性も実感できたといいます。



授業では、キーボードやペンシルを使っての手書きなど、生徒が自分に合ったツールを使い分けられるのも、同校ならではの取り組みのひとつです。生徒からも、「授業中にタブレットを使うことでリフレッシュして、集中しやすいです」「親しみのあるタブレットで問題を解く方が楽しいです」と好評でした。

## 今後は部活動やボランティア活動にもICTを生かしていく

LTEタブレットの携帯性の高さを生かし、体育ではアプリを使い自分の演技を友達同士で撮り合っで見直すという取り組みのほか、音楽では作曲アプリで短歌にメロディーをつけるといった“座学と実技の融合”にも有効活用されています。

大澤教諭は「タブレットを導入したからといって、特別な授業をやるのではなく、これまでの授業をより円滑・快適に進めるための文具を手にしたような自然な形でタブレットを使う環境を整えていきます」と話しています。部活動で授業に参加できない生徒が、遠征先で配信された教材を使って学ぶなど、ICTを最大限に生かした同校ならではの取り組みは今後も積極的に行われていきます。



大澤 次郎教諭

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)  
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを!

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)